COMMUNITY DRIVEN COMPANY

BASTL INSTRUMENTS

BASTL INSTRUMENTSとは？

- チェコ共和国ブルノ（プラハに次ぐ第二の都市）のシンセメーカー
- Vaclav（ヴァーツラフ）Ondrej（オンドレイ）の2人がアートプロジェクトとして2011年にスタートさせた
- テーブルトップ楽器とユーロラックモジュラーを発売
- コミュニティがカンパニーを運営
- クリエイティブで個性的なサウンドやデザイン、コンセプトが魅力。どこか異質な世界観。

STANDUINO時代（2011-2013）

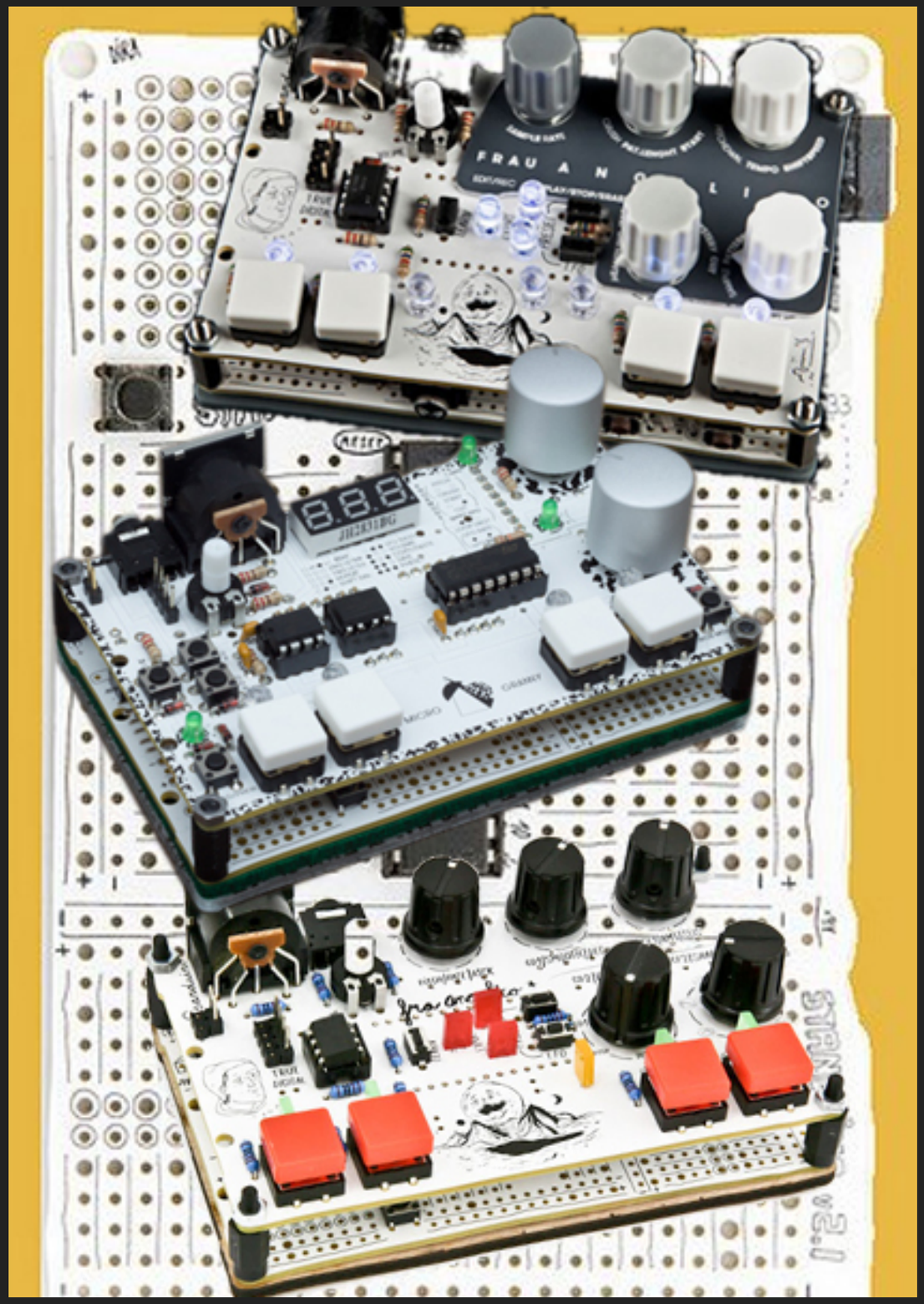
- 主にアートインスタレーションの為のサウンドデバイスを制作
- メイカームーブメントの影響を受けたDIY的アプローチ（Arduino、オープンソース、3Dプリンタ、レーザーカッター、CNCなど）
- 作品を掲示していたWEBサイトを通じて購入希望者が増える

STANDA FLIP チェコ自作楽器のパイオニア

- まだメディアや芸術活動が検閲されていたビロード革命・ハヴェル大統領以前の時代に“Standa Filip（スタンダ・フィリップ）“は自作のシンセやドラムマシン、エレクトリックギターなどを独自の発想で開発してた。
- Vaclav（ヴァーツラフ）の最も影響を受けた回路設計者。多くのアイデアは製品に受け継がれている。
- Standuinoは、StandaとArduinoを合体させた造語である。

初期のSTANDUINO作品

- 最初に販売された製品（作品、発明品）はFraAngelico。4つのトリガーボタンのコンビネーションにサウンドを割り当て演奏する。
- ドラムシンセサイザーのFrauAngelicoも追って発表された
- 現在のmicroGranny2.5やモジュラーGrandPAの原型となったグラニュラーサンプラー（microGranny1.0）も登場



アート作品的なパッケージ

- PI（円周率のファイ）ミステリアス・シンセサイザー
- 限定生産50台で取扱説明書は円周率がタイピングされたノートの切れ端
- 銀紙に包まれた謎の石ころ、手作りのピンバッジ、変な木彫りのキャラクター、スプレーペイントされた製品箱、布が一体化した不気味な基板、そして正体不明の釘とクリップ
- 予測一切不可能、不規則に変化する謎のコントロール

STANDUINO時代後期

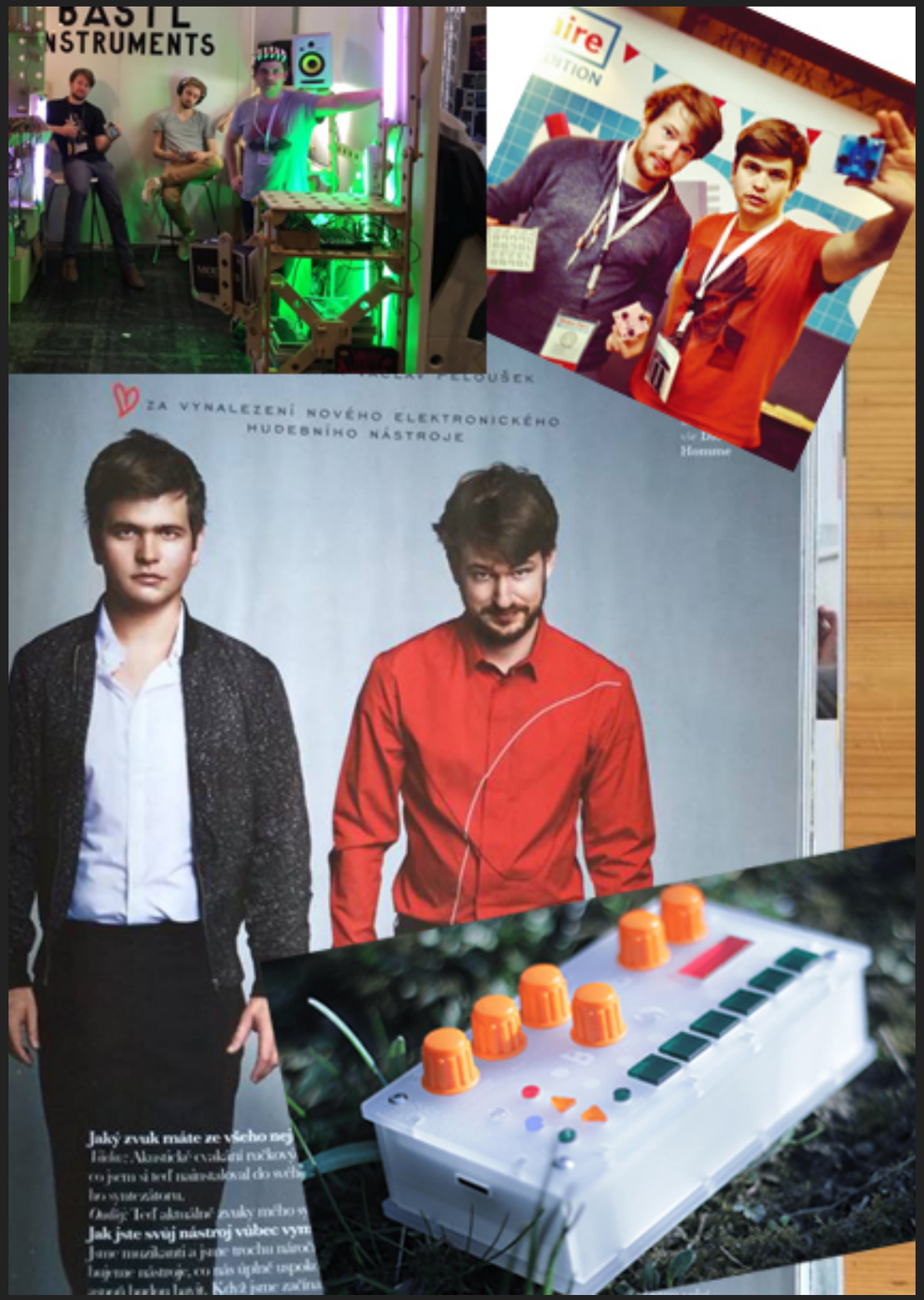
- 世界中から注文が殺到したため生産体制を整える必要がでてきた
- 自社生産のためのデジタル工作機械を整備
- 発表する作品は毎回即完売。日本国内でもファンが増える。
- AZUMA HITOMIさんのアルバムジャケットには愛用のFraAngelicoが登場

BASTL INSTRUMENTSの誕生(2013)

- ハンドメイド電子楽器製造を本格的にスタート
- Anymade Studioがデザインやビジュアルを全面的に担当するようになる
- 最初の製品は「**Trinity**」。手のひらサイズのMONO、POLY、DRUM、SQNCRをサイドコネクターで合体させリズミックなパターンを演奏
- MIDI入出力を追加できるMIDI BASTLや、単体のシンセサイザーXORも後に加わる。
- オープンソース。新しい機能がユーザーやメーカーによって追加された。

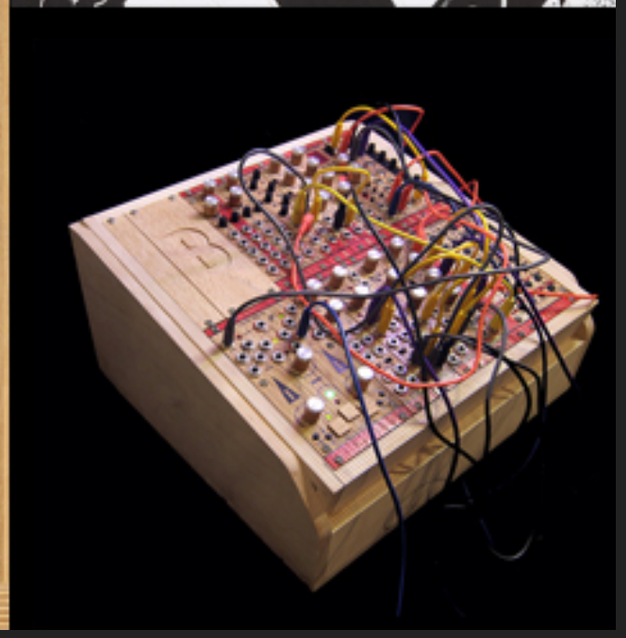
2014年のBASTL INSTRUMENTS

- 最初のヒット楽器「microGranny 2.0」を発表
- ドイツのフランクフルトで開催される世界最大の機材展示会 Musik Messeに出展。注目を集める。
- ビジネスが急成長。地元の音楽家や技術者が工房に出入りするようになり、組み立てやパッケージングなどを手伝うようになる。
- 最初のmicroGranny 2.0の箱は全部白い箱に鉛筆で手書きのデザイン！ハンドメイドに徹底的にこだわる



BASTL モジュラーの発売開始（2015）

- オンラインストア「noise.kitchen」を開設
- ユニークな「木製ユーロラックモジュール」を初めて発表
- Václavの卒業論文は「モジュラーシンセサイザーやセンサーのシステムを使って生態系の再構築を実証する」というものだった。この時のアイデアは後にDC MOTORやSERVO、SENSEといった駆動系モジュラーとして製品化
- 木製ケースに収まったRUMBURAKシステムも発表。



BASTL モジュラーの特徴

- 優れた回路デザイナーでありプログラマーでもあるVáclavが設計を担当、近年ではニューヨーク・ブルックリンから移住してきたCasper ElectronicsのPeter Edwardsも設計に関わる。
- ポータブルで求めやすい価格で、さらに音楽性に優れ、DIYフレンドリーなモジュール設計。多機能ながら5〜7HPにサイズを抑えているものが多い。
- イマジネーションを刺激するクリエイティブなサウンドメイク、アイデアに溢れた機能性。個性的でBASTLにしかない価値を手にできる。
- Casper Electronicsとのコラボレーション製品（ブラックパネル）や、木製パネルに加えてアルミニウムのパネルも発売になった。

テーブルトップ・デバイス

- モジュラーシステムとも接続できるテーブルトップ（ガジェット系）の楽器も多く発売
- microGranny 2.5（グラニュラーサンプラー）、bitRanger、softPop、KastleV1.5などのマイクロモジュラーシンセ
- Dude(ミキサー)や、オーディオから同期パルスを出力するKLIK、ノブが60個のMIDIコントローラ60knobs
- 従来の概念に一切あてはまらない、まったく新種のエフェクト・プロセッサー THYME

BASTLコミュニティの魅力

- あらゆる種類のクールな事を一緒にやっていこうというコミュニティーが会社をドライブしている。
- ミュージシャン、ハッカー、芸術家、デザイナー、DJ、エンジニアなど様々な職業の人々が集う。
- パーティーやワークショップが常に行われ、モジュラーを作っている人も、コーヒーを作っている人もいる、カセットテープレーベルやレコードレーベルもある、更に志せばコミュニティー内のメンバーが新たにモジュラーブランドを立ち上げ（BIZMUTH、Bubblesoundなど）そのディストリビューションも販売もみんなで手伝う

I CARE ABOUT PEOPLE

- 「私は実際にBASTL INSTRUMENTSに何人の人がいるのかは知らない。毎月何台のユニットが売れているのかさえも知りません。数について気にかけることはせずに、同じビジョン、興味、モチベーション、同じ笑いを共有できる人々を気にかけます。それがダイナミックな動きをクリエイトしていく」
- 「このコミュニティーを持続させることが大切で金儲けは優先ではない。自分たちがインスパイアされる独立したクリエイティブな環境を作ろうと試みている。」
- Cockooの 1 時間弱のドキュメンタリービデオが秀逸（YouTubeで閲覧可能）。自主制作の雑誌やジン、Patch&Tweakにもインタビューがある

現在のBASTLの活動

- **Patchení s Nikol -** BASTLメンバーの奥さんのニコルさんはモジュラー初心者向けの動画シリーズで有名。女性のモジュラーコミュニティPink Noiseを主宰。
- **Noise Kitchen -** ブルノにあるモジュラーシンセ のフィジカルストアを運営
- **Rello -** BASTLメンバーにコーヒー焙煎の達人がいたのでコーヒーも販売中。Koffeinというカフェも共同経営している。
- **eKalimba -** 電子カリンバや木製電子楽器の生産OEMをスタート。自社設備により自由度の高い活動を可能に。
- **Herna -** 旧いカジノスペースを改造したクラブを経営。
- **Bastl Jam -** BASTLコミュニティーから生まれている音楽を30分枠でパフォーマンス。製品開発にも役たっている。
- **Nona Records -** BASTLコミュニティーの音楽を作品化するレーベル。カセットレーベルBukko Tapesも。

BASTL DIYワークショップ

- 「一緒にDIYでワークショップすることは何よりも楽しく、安い価格でモジュールを入手する事ができるので大きな意味がある！」とモジュラーキットの販売に積極的。
- 世界各国でワークショップを行っている。
- 弊社アンブレラカンパニー でも月に一度BASTL DIYワークショップを開催中です。ぜひご参加ください。